

研究用試薬

MMC Cocktail 抗体

(エムエムシー カクテル)

包装 : 希釈抗体 1本 3.5mL

Code : MCKT-23002

Lot :

Exp :

製造販売元

株式会社パソロジー研究所

〒930-0871

富山県富山市下野 16 番地

新産業支援センター305号室

TEL:076-411-8088

FAX:076-444-0017

2023/06 改訂

1. 内容

希釈済みMMC Cocktail (GATA3+Mammaglobin) 抗体 3.5mL (1本)

MMC Cocktail 抗体は GATA3 と Mammaglobin の感度および特異性を組み合わせたマウスモノクローナル抗体とラビットモノクローナル抗体の混合抗体です。

(MMC : Mammary Cancer)

2. 使用目的

乳癌は治療後の晩期の転移再発が希ではありません。また、乳癌は女性で最も罹患数の高い癌のため、女性に癌(腺癌)が見られた場合は乳癌の転移を鑑別する必要があります。

転移病変で原発臓器が乳癌であると確定するためには、HE 組織像を大前提として、乳癌に特異性の高い抗体と共に、鑑別となる他臓器癌に特異性の高い抗体を組み合わせ確認します。

GATA3 は、乳癌の核に陽性となる抗体では ER や PgR などのホルモン受容体に比べ感度と特異度ともに高くトリプルネガティブ乳癌でも比較的陽性率が高いと報告されています。

Mammaglobin は乳癌の細胞質に陽性となる抗体では感度と特異度ともに高いと報告されています。

MMC カクテルは、核に陽性となる抗体(GATA3)と、細胞質に陽性となる抗体(Mammaglobin)を混合し、1回の染色で再発や転移病変での原発巣推定に役立ちます。

3. MMC Cocktail を使用した染色方法(例)

1. 脱パラフィン操作

2. 加熱による抗原賦活法

予めウォーターバスで 95 度に加温した抗原賦活液 (1mM EDTA 溶液 pH8.0 - 10.0)に、脱パラフィンした標本を浸して、40 分間処理

ウォーターバスから標本の入った容器を室温で放熱(20 分間)

3. 流水にて軽くすすぎ、蒸留水で水洗

4. 洗浄バッファーに標本を浸す。(5 分間)

操作(4)以降は、内因性ペルオキシダーゼ処理をしてから、MMC Cocktail 抗体をそのまま滴下して室温で30分間反応させます。MMC Cocktail 抗体反応の後には、マウスイムノグロブリンとウサギイムノグロブリンの両者に反応するポリマー試薬、もしくはABC/LsAB 試薬によって検出を行います。ABC/LsAB 試薬による検出の際には、予め内因性ビオチンをブロックしてから陽性・陰性反応の検出を実施して下さい。

自動染色機で初めて染色する場合は、まずはデフォルトの設定で試染色を実施し、賦活時間や一次抗体の反応時間を適宜調整ください。

4. 染色例

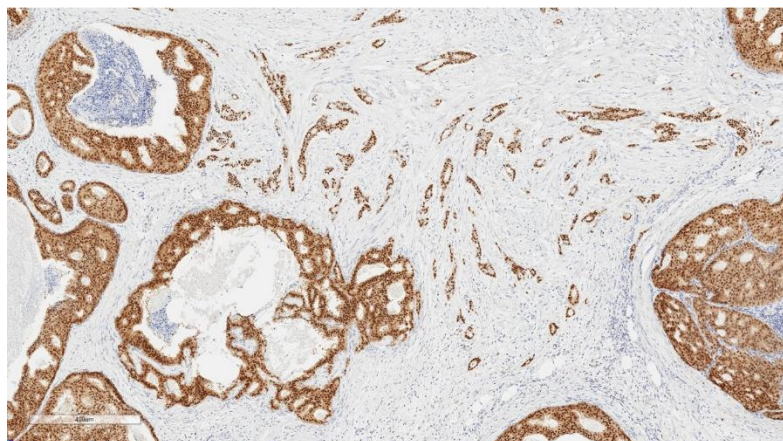


Figure1: MMC Cocktail で染色した FFPE ヒト乳癌組織

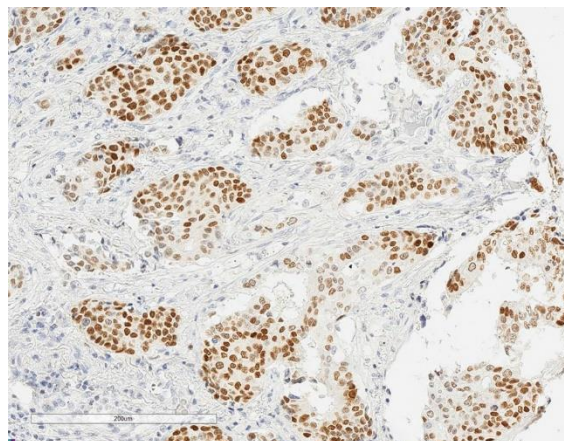


Figure2: MMC Cocktail で染色した
FFPE ヒト乳癌肺転移組織

5. 貯法

冷蔵: 2~8°Cで保存ください。

6. 参考文献

1. 森永正二郎. 原発不明癌の病理診断における免疫染色の意義. 病理と臨床. 2014; 32(臨時増刊号): 64-75.
2. 乳癌診療ガイドライン疫学・診断編 2022年版 328-330
3. Sangoi AR, Shrestha B, Yang G, Mego O, Beck AH. The novel marker GATA3 is significantly more sensitive than traditional markers mammaglobin and GCDFP15 for identifying breast cancer in surgical and cytology specimens of metastatic and matched primary tumors. Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2016; 24(4): 229-37. [PMID: 25906123]
4. De Lara S, Parris TZ, Werner Rönnerman E, Helou K, Kovács A. GATA3 as a putative marker of breast cancer metastasis-A retrospective immunohistochemical study. Breast J. 2018; 24(2): 184-8. [PMID: 28703335]